（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふれあいみらいキッズ			
○保護者評価実施期間	令和8年10月1日	～	令和8年10月7日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	27	（回答者数）	22
○従業者評価実施期間	令和8年10月1日	～	令和8年10月14日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年10月29日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々のアセスメントに基づく客観的な分析と、計画に沿った一貫した支援。	子どもの最善の利益を踏まえた支援計画の作成と、スタッフ間の情報共有。	デマンドとニーズを混同せず、将来の選択肢を増やすための保護者、関係機関を含めた多職種連携の強化。
2	チーム全体で固定化しない、変化を持たせた活動プログラムの立案	・目的意識を持ったプログラムの展開： 漫然と活動を行うのではなく、それぞれの活動において「何を育むか」という意図・狙いをあらかじめ明確にした支援の実施。 ・楽しみながら学べる体験の充実： 週末のお出かけや料理などの楽しいイベントを通じ、子どもたちが主体的に参加できる機会の提供。 ・5領域を網羅する総合的な支援： 子どもの発達や特性に応じ、5領域のバランスを意識したバラエティ豊かな活動プログラムの立案。	・集団療育と個別療育のバランス調整 ・個別アプローチの強化
3	通信・SNSや連絡ツールを活用した、保護者への丁寧な情報発信	・活動の狙いの事前発信： 連絡ツールを活用し、活動の内容や「何を育むか」という意図・狙いをあらかじめ保護者へ共有。 ・日々の療育の様子やアルバムの公開： ブログやInstagramを通じた日々の活動報告のほか、事業所に自由に閲覧できるアルバムを設置。	ブログやインスタグラム等の更新頻度を高め、情報発信をさらに強化する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリーや情報伝達への対応、構造化された環境・専用スペースの不足	建物構造上バリアフリーが未対応であり、部屋数が少なくクールダウン用の個室がないこと。	・折りたたみスロープの導入と活用 ・パーテーションによる空間の区切りと騒音対策
2	地域の他の子どもたちや児童館・児童クラブとの交流の少なさ	外出時の偶発的な一般児童との接触に留まり、意識的な地域交流の機会が不足していること。	・近隣公園の活用を通じた地域児童との交流 ・児童館や児童クラブへ出向く活動の企画・実施
3	第三者による外部評価の実施と、結果を活かした業務改善の不足。	これまで第三者評価を受ける体制や仕組みが十分に構築できていなかったこと。	・来所された地域関係機関の各職種からの意見聴取 ・外部の視点を取り入れた開かれた事業所づくり